

## 防除対策情報 第3号

平成25年6月21日 秋田県病虫害防除所

### 補植用余り苗の放置率が高い

～直ちに補植用余り苗を泥の中に埋めてください～

#### 1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

- 1) 6月18日から20日までの補植用余り苗調査（調査地点73地点、2,696筆）の結果、放置筆率は12.1%（平年9.8%）と高かった。補植用余り苗でのいもち病の発病地点率は8.2%（平年8.9%）、放置ほ場における発病筆率は2.8%（平年3.0%）といずれも平年並であった（表-1）。
- 2) 6月18日までの微気象観測によると、6月14～15日に3地点で、18日に県北部（2地点）で葉いもちの感染に好適な気象が観測された（図-1）。
- 3) 以上のことから、本年の全般発生開始期は平年（7月6日）より早まり6月6半旬になると予想される。発病した補植用余り苗は伝染源になるため、直ちに補植用余り苗を処分し、葉いもちの防除対策を確実に実行する必要がある。

#### 2. 防除対策

- 1) 水田や畦畔に放置された補植用余り苗は、いもち病の発病の有無にかかわらず、直ちに泥の中に埋めて処分する。補植用余り苗は根が張っているため、手で抜けない場合はスコップ等で掘り出して確実に埋める。
- 2) これまでに葉いもち防除を実施していない場合は、直ちにオリゼメート粒剤を2kg/10a散布する。
- 3) いもち病の発生状況を確認し、補植用余り苗や本田で病斑を発見した場合は、直ちにブラシン剤又はノンプラス剤の茎葉散布を行う。その後、必要に応じてビーム剤の追加散布を行う。

#### 【 問い合わせ先 】

秋田県病虫害防除所 TEL 018-860-3421

秋田県農業試験場 TEL 018-881-3327

掲載HP <http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>

**参考資料**

表一 補植用余り苗の巡回調査(6月18~20日)

	調査 地点数	調査 ほ場数	余り苗 放置ほ場率	発病地点率	発病ほ場率	
					全ほ場	放置ほ場
県北部	18	630	12.4 ( 9.6)	16.7 (10.3)	0.48 (0.31)	3.9 ( 3.1)
県中央部	29	1,148	14.9 (10.4)	6.9 ( 8.7)	0.44 (0.26)	2.9 ( 2.6)
県南部	26	918	8.4 ( 9.0)	3.9 ( 7.9)	0.11 (0.26)	1.3 ( 2.8)
全県	73	2,696	12.1 ( 9.8)	8.2 ( 8.9)	0.33 (0.28)	2.8 ( 3.0)
概評			多	並	並	並

( )は平年値

●:好適 ○:準好適 ×:非好適 -:欠測

	北 秋 田 市	三 種 町	秋 田 市	由 利 本 荘 市	大 仙 市	横 手 市
6/10	×	×	×	×	×	×
6/11	×	×	×	×	×	×
6/12	×	×	×	×	×	×
6/13	×	×	×	×	×	×
6/14	×	●	×	×	●	○
6/15	×	×	×	●	×	×
6/16	×	×	×	×	×	×
6/17	○	○	×	×	○	×
6/18	●	●	○	×	×	×

図一 1 微気象法判定結果

**フサライド・トリシクラゾールの総使用回数に注意**

ラブサイド剤の成分であるフサライドの総使用回数は「3回以内」、ビーム剤の成分であるトリシクラゾールの総使用回数は「本田では3回以内」です。農薬は使用のつど帳簿に記載し、ラブサイド剤、ビーム剤及びその混合剤（ブラシン剤等）の使用回数が各成分の総使用回数を超えないよう計画的に使用しましょう。